



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

8. トマト「桃太郎みなみ」は台木「グリーンフォース」に接ぎ木することで増収する

[要約]

夏秋雨除けトマト栽培用の「桃太郎みなみ」は、草勢強化に効果的な台木「グリーンフォース」に接ぎ木することで茎径が太く、一果重が重くなり、可販収量が増加する。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 情報

[背景・ねらい]

本県の夏秋雨除けトマト産地では、夏季の高温や強日射による裂果の発生が少ないとされる「桃太郎みなみ」の導入を進めている。一方、本品種は特に秋季に草勢がやや弱く、小果傾向で、慣行品種に比べて収量が少なくなりやすい。そこで、草勢の増強効果をもつ台木「グリーンフォース」の接ぎ木株が本品種の草勢及び収量に及ぼす影響を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「桃太郎みなみ」と台木「グリーンフォース」との接ぎ木株は、「桃太郎みなみ」の自根株と比較して 3～6 段花房まで及び 11 段花房以降も太い傾向で、3 段花房以降の茎径が約 12～13mm に保たれる（図 1）。
2. 接ぎ木株は、自根株と比較して一果重が重く、可販果数が多い。また、規格外の小果が減少するため、可販収量が増加する（表 1）。
3. 接ぎ木株の裂果による規格外果数は、自根株と同程度でわずかである（表 1）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、高冷地研究室（真庭市蒜山、標高 460m、黒ボク土壌）での雨除け栽培の結果である。
2. 本成果は、畝幅 200cm、株間 45cm、2 条植え、斜め誘引 1 本仕立てで、養液土耕（自動灌水施肥システム GT6C11、（有）グリーンサム）による試験結果である。



[具体的データ]

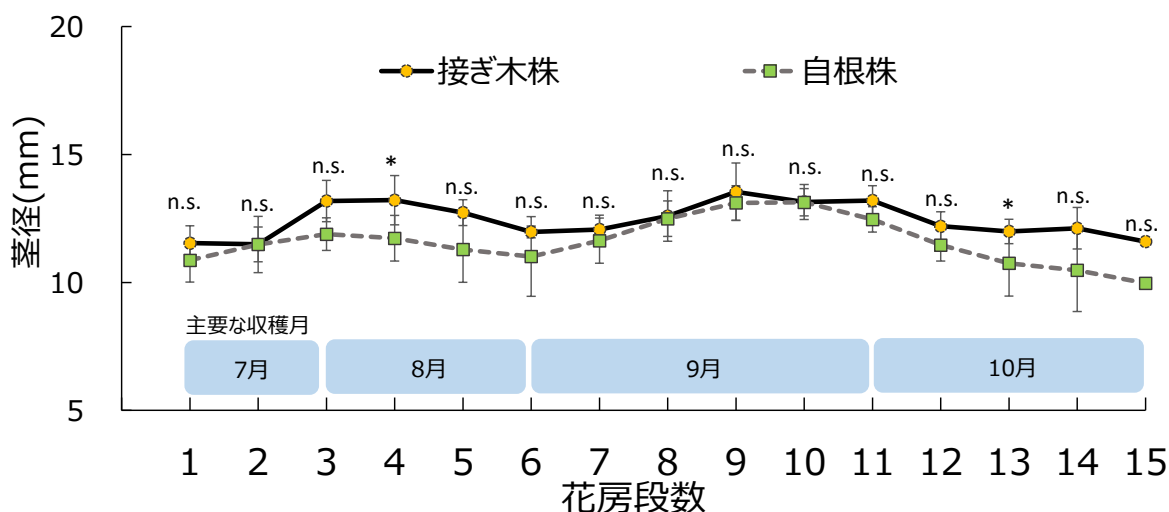


図1 「桃太郎みなみ」における台木「グリーンフォース」の利用が茎径に及ぼす影響（令和6年）

注1) t検定により、*は5%水準で有意差があることを、n.s.は有意でないことを示す。エラーバーは標準偏差を示す

注2) 栽培終了時に、花房直下の節間の長径を測定した

表1 「桃太郎みなみ」における台木「グリーンフォース」が収量性及び裂果程度に及ぼす影響

試験年	処理区	可販一果重 ^z (g)	可販果数 (果/株)	可販収量 (kg/株)	裂果による 規格外品果率 ^x (%)
令和5	接ぎ木株	160	38	6.0	2
	自根株	158	32	5.0	2
令和6	接ぎ木株	149	33	5.0	2
	自根株	140	26	3.6	6
分散分析 ^y	試験年	**	n.s.	**	n.s.
	処理区	*	*	**	n.s.
	交互作用	n.s.	n.s.	n.s.	*

^z 収穫果から規格外品果及び100g未満の小果を除いたもの^y **は1%水準、*は5%水準で有意、n.s.は有意でないことを示す^x 裂果による規格外品果数/果数（収穫果から裂果を除く規格外果数を差し引いた数）×100

[その他]

研究課題名：夏秋雨除けトマト栽培における安定生産技術の開発

予算区分・研究期間：農総セ連携事業促進費・令4～7年度

研究担当者：上田直國、山下尋揮、佐野大樹

関連情報等：1) 試験研究主要成果、[令元 \(32-33\)](#)、[令6 \(59-60\)](#)